

南方系のイシガケチョウが急速に分布拡大

諏訪哲夫

2020 年前後から、浜松市天竜区や掛川市北部でイシガケチョウの採集・目撃情報が複数寄せられた。これは西日本からの迷蝶による一時的な発生の可能性が高いと考えていた。

本県において 1993 年ごろから南方系の種のツマグロヒョウモンを皮切りに 2000 年にはナガサキアゲハ、2001 年ムラサキツバメ、2007 年サツマシジミの爆発的な分布拡大に目



イシガケチョウ（森町葛布。撮影：福井順治）

を見張り、静岡昆虫同好会の多くの会員は精力的な分布調査を行った。一方、南方系の蝶で北上する可能性の高い種の筆頭にも考えられていたイシガケチョウは上記の種とは逆に、分布を拡大する様子を全く見せていなかった。その理由は鬱蒼とした照葉樹林に生息する森林性の蝶で、ここに執着していて、すでに拡大した前述の種とは習性が異なるためであろうと推測し、今後拡大するとしてもゆっくり進むのではないかと思っていた。

イシガケチョウは三重県以西の西日本に生息し沖縄では個体数は多い。また、迷蝶として偶然に記録されたことのある県は最北が群馬県で、そのほか千葉県・東京都・福井県などである。静岡県からの最も古い記録は 1943 年に発表された日本平で、以降、静岡市葵区（1980 年）、函南町（2001 年）、浜松市（2005 年）、御前崎市（2005 年）、静岡市清水区（2012 年）が発表されており、直近は 2016 年の磐田市の記録である。

2022 年の春になって掛川市北部などからさらに多くの個体が観察された。本種は成虫で冬を越すことが知られており、越冬個体が見られたということは定着した可能性が極めて高いことになる。6 月になり越冬個体から生まれた第 1 化の成虫が各地で発見された。これまで掛川市と周辺に多かったが、大井川を越えた島田市からも発見され、ついに静岡市葵区水見色や静岡市駿河区谷田など飛び離れた場所からも発見されている。その後これらの中間となる藤枝市からも続々見つかった。しかし安倍川以东からはかなり調査をしているにもかかわらず見つからない。不思議なことに、沼津市・長泉町境の桃沢川で目撃した人がいるとの情報を最近いただいた。森林に執着していると思われる本種が 60–70 km もそんなに早く移動するのだろうか驚きである。

イシガケチョウは遠くから見ると、白く、大きさも似ているため一見モンシロチョウかと思われるが、飛び方は羽を広げてツーと速い速度で滑空し、道路面の水でよく吸水し、葉の裏側に羽を広げて止まるなどの習性をもっているためで見間違ふことはほとんどない。

なお、今後も分布拡大の状況に注意していきたいと思いますので、目撃された方は NPO 自然博ネットに情報をお寄せください。